

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年九月度 入選句（投稿総数二千二百六十一句・一般投句数六百四十一句）

選者 長野 美代子

特選

隠国の如き静寂や小望月 大垣市 白井 秀子

とても格調高い御句にまとめられている。「隠国」とは、北方の国、「小望月」は陰暦八月十四日の月である。平家物語の優雅な世界へのめりこむ感じです。素敵な御句です。

小鳥くる窓ある封書すかし見る 大垣市 秋山 くに子

何の説明もいらぬ、誰もが微笑む可愛い御句ですね、「窓ある封書」がいいですね、きつと小鳥も何が書いてあるか覗き見がしたいと思う。やさしい心になります。

マネキンの着せかへられて秋暑し 大垣市 官脇 和子

服飾会では未だ夏の最中であるというのに早々とマネキンは秋の装いをしている。今年は特に暑く暦の上のみ秋へと進んでいるが店頭には秋の色彩と変りなかな手が出ない。マネキンも否応なく着せ変られ大変だと思ふ。着目点が良かったです。

今年も三句三様の素晴らしい御句をありがとうございます

秀逸

大夕立あの児は家に着いたやら 大垣市 佐竹 余史美

織姫の恋路邪魔する夜の雨 大阪府羽曳野市 廣石まさやん

骨抜きになりて戻りぬ炎天下 大垣市 早崎 美弥子

暑氣払ひふるさとの膳囲みいて 大垣市 吉田 てるみ

掌の清水に映るちぎれ雲 大垣市 鶴田 信子

達磨さん転んで起きて菊日和 京都府宇治市 八田 弥須子

夕暮れの昼にこもる暑さかな 不破郡垂井町 竹嶋 富美子

昼下り風鈴までも休みをり 不破郡垂井町 大羽 志津子

早々に門灯ともし魂迎 養老郡養老町 田中 紫香

炎天の円空仏や顔歪め 静岡県静岡市 松永 信介

入選

夏のれん町屋を抜ける風の道	大垣市	野村	秀香
供え菓子両手に地の子地藏盆	不破郡垂井町	西垣	和志
こもれ日の光を浴びる夏の蝶	瑞穂市	古川	聡美
戦なき時代存へ夏料理	愛知県名古屋市	舘野	茂子
稲穂波見守っている道祖神	大垣市	松永	勝二
人去りて一人の水辺秋蛩	養老郡養老町	田中	紫香
今日一日素直に生きて大根まく	大垣市	今津	絹代
雲流る去りゆく夏を送りけり	京都府宇治市	古根	洋子
水打ちて今日の介護のはじまりぬ	東京都世田谷区	関戸	信治
照り返す山辺の畑の桑苺	大垣市	安福	けい子

入選

青畳匂ふ座敷や涼新たに	安八郡神戸町	高橋	日出美
伊吹峰の風がなでゆく稲の花	大垣市	川瀬	喜梅古
稲の花山河ゆたかに中山道	大垣市	森川	きよ子
秋茜田に夕影を映しつつ	大垣市	尾関	逸子
夜の静寂齡かさねむ十日月	大垣市	田中	雅子
裏木戸へ羽音移りし晩夏かな	大垣市	佐藤	すみ子
畦道にすれちがふ風秋はじめ	揖斐郡揖斐川町	栗野	みねお
宵越しの踊り果つるや宗祇水	愛知県豊田市	城山	憲三
夏休み猫の手ほどの手を借る	不破郡垂井町	高木	巧み
足弱の妣を乗せたき茄子の馬	栃木県那須塩原市	垣内	孝雄

選者吟

落鮎の膳麴の湿りくる  
美代子